

令和4年

第4回市議会定例会 意見書案第2号

知的障がい者・知的障がい行政の国の対応拡充を求める意見書

上記の意見書案を函館市議会会議規則第13条第1項の規定により提出します。

令和4年12月8日提出

函館市議会議長 浜野幸子様

| | | | |
|-----|---------|----|----|
| 提出者 | 函館市議会議員 | 茂木 | 修 |
| 同 | 同 | 松宮 | 健治 |
| 同 | 同 | 池亀 | 睦子 |
| 同 | 同 | 小林 | 芳幸 |

知的障がい者・知的障がい行政の国の対応拡充を 求める意見書

身体障がい者は「身体障害者福祉法」で定義され、精神障がい者は「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」で定義されています。ところが、知的障がい者に関しては、「知的障害者福祉法」で知的障がい者に対する福祉サービスは規定されているものの、知的障がい、あるいは知的障がい者の定義は規定されていません。

また、身体障がい者、精神障がい者、知的障がい者の手帳制度について、身体障がい者と精神障がい者の手帳は、法律に基づき交付・運営されているが、知的障がい者の療育手帳の制度は、厚生事務次官通知に基づき各都道府県知事等の判断により実施要項を定め、交付・運営されています。

知的障がいについては自治体により障がいの程度区分に差があり、また各判定機関におけるボーダーラインにも差が生じています。自閉症の方への手帳交付は、都道府県によって対応が異なっています。

実際に、「精神障害者保健福祉手帳」を交付するところ、「療育手帳」を交付するところ、その両方を交付するところ等、様々な自治体があります。

よって、政府に対して、国際的な知的障がいの定義や、自治体の負担等も考慮した判定方法や基準の在り方の検討を踏まえ、知的障がい行政・手帳制度を、国の法律による全国共通の施策として展開することを強く求めます。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき意見書を提出します。

令和4年12月 日

函館市議会議長 浜野幸子